

房日新聞寄稿 平成十七年八月三十一日付

虹のかけ橋〜ウミホテルとアワビがむすぶ日米交流〜開催にあたって

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム 理事長 愛沢伸雄

私たちNPOはこの地の魅力を掘り起こし、「いまある」ものの歴史・文化を活かしたガイド事業を通して、平和・交流・共生」の理念が生きる地域づくりを目ざしています。

その想いを共感する人びとの出会いによって、安房の宝であるウミホテルとアワビに隠された歴史が明らかにになり、いま、新しい地域文化が生まれようとしています。

それは、『虹のかけ橋〜ウミホテルとアワビがむすぶ日米交流』として実を結ぶことになりました。館山発祥の合唱組曲『ウミホテル・コスモブル』は平和の色』の初演コンサートを第一部、サンディ・ライドン氏（カリフォルニア大学名誉教授）によるスライド講演『太平洋をわたった房総のアワビ漁師たち』を第二部として、九月三日（土）二時半より南総文化ホールで開催します。

● 合唱組曲『ウミホテル』

戦時中、館山の子どもたちは軍事目的のために、ウミホテルを取らされていました。館山の海に輝く小さな生物にまつわる平和祈念の合唱組曲が、作曲家藤村記一郎氏と作詞家大門高

子氏から、私たち市民にプレゼントされました。

この楽曲に心を動かされた百数十名が合唱団を結成し、初演に向けて練習に励んできました。二一世紀にふさわしい平和の贈り物として、安房の地から世界に発信していくことを私は願っています。

● 六〇年前の九月三日

一九四五（昭和二〇）年、東京湾上のミズーリ号で降伏文書調印式が行なわれた翌九月三日、約三五〇〇名のアメリカ占領軍が館山へ上陸しました。この上陸シンの写真は、私たちNPOが作成したガイドブック『戦争遺跡』の表紙になっています。

昨年、館山市在住の溝口かおりさん（英会話講師・通訳）を通じて、この冊子を受け取ったライドン氏は、

アメリカでは、八月一日と九月二日で戦争の歴史は終わっている。私の研究テーマに関わる南房総の館山に、アメリカ占領軍が上陸したということとは知らなかった。この知られていない歴史的出来事から六

〇年目にあたる二〇〇五年九月三日に、戦後日本のスタートとなった館山で平和を考える集いを日米合同でやれないだろうか」といつメッセージを私たちに伝えてきました。この申し出により、今日の催しが生まれました。

● アワビがむすぶ日米交流

明治期に、小谷源之助・仲治郎兄弟たち安房のアワビ漁師たちは、この地からカリフォルニア・モントレーにわたりました。ライドン氏はその研究をしている歴史学者ですが、日本でも館山市在住の水産学者大場俊雄氏が約四〇年前から同様の研究をしています。

近年では、安房の人びとによってさらに調査が進められ、新しい資料や写真が発掘されてきました。戦時中、アメリカでは日系人が強制収容所に隔離された際に、写真や手紙などは廃棄・焼却されてしまい、ほとんど残っていないそうです。打合せのために来日

したライドン氏は、安房に残る貴重な資料や写真を見てとても驚いていました。

戦争によって一度は途切れた日米民間交流が、いままた新たに始まりました。同じ想いを分かちあった仲間たちによって冊子づくりが進められています。また、資料パネル展も、たてやまた日海岸ホテルで開かれています。

今回、ライドン氏とともに四二名の人がとが来日し、安房に四泊、京都・奈良に八泊、安房に再訪し四泊します。ともに「地域の歴史から世界をみる視点」をもつ私とライドン氏はお互いの地域を学び合うことの重要性和可能性について話し合いました。

一行は、アワビダイバーのふるさと白浜・千倉、館山の戦争遺跡や八ッ木の刻まれた「四面石塔」、八幡祭礼、鴨川の大山千枚田、鋸南の鯨塚…などを見学し、南房総と世界のつながりや日本の歴史・文化を学ぶ予定です。

● 太平洋にかかる橋

九月三日には、カリフォルニア生まれの堂本暁子千葉県知事とライドン氏が、国境を超えた相互理解と友好の歴史を築いた先人に学び、新しい国際交流のあり方を語り合います。

「戦後六〇年」の今夏、この日米交流が、安房の地から太平洋にかける新しい橋となることを願い、多くの皆様のご来場をお待ちしております。入場は無料です。



房日新聞寄稿 平成十七年九月一日付

虹のかけ橋―ウミホタルとアワビがむすぶ日米交流―開催にあたって

合唱組曲『ウミホタル』初演実行委員長 船田正廣

ウミホタルは小さい。その子どもたちはもっと小さい。しかし、三億年も光り続けてきたという。館山の生きた化石、生きた文化財と言える。ウミホタルが光る色は精いっぱい美しいだが、なんとも名状しがたい。作詞家の大門高子さんは、それを「ヌメブル」と言いきった。世界中の色名帳にも無いと思うが、みごとである。

● 合唱組曲『ウミホタル』誕生

そのウミホタルが、戦時中、子どもたちによって採取されていたということとを、私は知らなかった。地域史の研究をしている愛沢伸雄さんが、旧制安房中学の日誌のなかで「海蛸採集」といつ記載を見つけたことから調査をすすめ、その事実を明らかにしてきたという。この十数年、館山にある戦争遺跡の調査を「ツツ」と続け、「館山海軍航空隊赤山地下壕」の一般公開と史跡化を实らせた立役者である愛沢さんから、昨年の秋の市民音楽祭の会場で声をかけられた。

「船田先生、ウミホタルの合唱組曲が出来たんです。館山で初演をやりたいんですが、力を貸してもらえませんか」と言いつつ。

聞けば、NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラムの戦跡ツアーに参加し、ウミホタルに感動した音楽家によって、一年がかりで誕生した歌だという。そのとき、情熱的に語る愛沢さんから、一冊の楽譜を手渡された。

作曲は藤村記一郎さん、有名なミュージカル『おれいっしやがやつてきた』の作曲家だ。表紙をめくると、序章『夕日の海』に始まり、第一章『ウミホタルの光』、第二章『戦争のシナリオ』、第三章『子供たちの小さな戦争』、第四章『戦場のウミホタル』、第五章『宇宙（そら）の子守唄』、第六章『光の海』、そして番外編『ツツゴ―沖ノ島』と続く。家に帰って素人ながらひと通りミングしてみよう。うん、なかなかいい感じだ。

● 初演に向けて

最後に記されている作曲家のメッセージを読んだとき、心が動いた。静かな入江の砂浜の海、とりわけ館山に多く棲息するウミホタルの放つ光を実際に体験した

音楽家から生まれたこの名曲は、館山で初演するのが最も相応しいと強く感じた。微力の我が身をかえりみず、初演実行委員長と一いつ大役をお引き受けしていた。

初演日は二〇〇五年九月三日と決まった。合唱指導者の本橋朋子さんと一緒に、音楽関係者や賛同を呼びかけて回った。願いが届いたかのよつに、まず九名の音楽指導者を含む二十三名の市民が名乗りを上げてくださった。次には、館山音楽鑑賞協会の本多かおる先生が副実行委員長として、若輩の私を支えてくださった。その後、

さらに合唱団員を募集したところ、四月の初練習には約八十名（内、子どもたちが二十六名）も集まった。

月に二回の練習のたびに知らない顔が増え、現在一〇八名になっている。

合唱は初めてという人も少なくない。普段着の気分で参加できる合唱団、市民が主役の手づくり合唱団、これが合唱団『ウミホタル』の魅力かもしれない。

● 響け、ウミホタルの心

いよいよ初演本番までカウントダウンが始まった。これまでもはるばる名古屋から練習指導に来てくださった藤村先生が、当日の指揮をとってくださいと。なんと光栄なことだろう。全国に先駆けた『ウミホタル』の初演には、鴨川混声合唱団、合唱団プリマベラ、千葉愛合唱団、紫金草合唱団なども駆けつけて、友情出演してくださることになっている。総勢一八一名の大所帯だ。

初演は、九月三日（土）十三時半より南総文化ホールで行なわれる「虹のかけ橋―ウミホタルとアワビがむすぶ日米交流」の第一部として上演する。アメリカからこの日のためにおいでになる四十二名の皆さんは、『ツツゴ―沖ノ島』を日本語で練習してきて、一緒に歌いたいと言っている。まさに、太平洋にかかる虹のかけ橋である。入場無料なので、ぜひ、多くの皆さんにご来場いただきたい。



虹のかけ橋〜ウミホテルとアワビがむすぶ日米交流開催にあたって

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム 池田恵美子

子どもたちに平和を手渡そう

「戦後六十年」の今年、諸団体と手をつなぎ、「南房総平和フェスティバル二〇〇五」子どもたちに平和を手渡そう」といつネットワークをつくってききました。

安房反核フェスティバル 安房地域母親大会、朗読劇『この子らの夏』... など、これまで地道に活動が続けてきたグループはじめ、その輪はどんどん広がりました。終戦記念日の「平和の集い」や、「安房 平和のための美術展」など多彩なプログラムが充実した夏でした。

この一連行事のクライマックスとして九月三日(土)十三時半より、南総文化ホールにて「虹のかけ橋〜ウミホテルとアワビがむすぶ日米交流」(入場無料)をおこないます。

「ユネス」精神を館山から発信

平和は世界恒久の願いです。教育や文化の振興を通じて、戦争の悲劇を繰り返さないように、という意図で設立された「ユネス」憲章の前文には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならぬ」という精神が謳われています。

国連本部をはじめ世界中に設置されている世界平和の鐘は、毎年九月の国連総会開会日(国際平和の日)に鳴り響いているといえます。

戦後まもなく、全国に先駆けて館山「ユネス」協会を立ち上げ、半世紀にわたって「ユネス」精神を実践してこられた本多かおる先生が、今回の催しを「虹のかけ橋」と名づけ、実行委員長の任を引き受けてご尽力くださっていることを、この場を借りてご報告します。

韓国の子どもたちを迎えて

平和フェスティバルでは、埋もれていた安房の歴史にもとづく、市民による草の根の国際親善事業に取り組んでいます。その一つは、「たてやま日韓子ども交流」でした。

今年は、韓流ブームの高まりに反比例するかのように、歴史認識のズレによる反日感情の高まりもありました。その影響で、日韓国交正常化四十年でありながら、記念交流行事の中止が各地で相次いだのです。

そんななか、韓国 浦項(ポハ)製

鉄西初等学校の児童二十名を館山に迎え入れたのは、とても意義深いことでした。浦項と館山の子どもたちは、館山の歴史・文化を学び、音楽や自然体験を通じて友情を深めました。

なかでも、館山の大蔵院にある「ウミホテル」が刻まれた「四面石塔」の前で、両国の歴史を学んだ子どもたちからは、「もつとお互いの国を知って、仲良くしたい」という発言もありました。音楽会では、両国の言葉で「ユネス」平和宣言が唱和され、「平和の鐘」の儀式もおこなわれました。

多くの市民や文化関係など諸団体の協力のおかげで、子どもたちによる「善隣友好」に貢献することができました。

太平洋にかける橋

太平洋をはさんで位置する日本とアメリカ。指をさすように向かい合う房総半島とモントレイ半島。友情と戦争。安房の海に生きるウミホテルとアワビ...さまざまなキーワードで出会った人びとの想いは、「虹のかけ橋〜ウミホテルとアワビがむすぶ日米交流」として結実しました。

平和宣言都市 館山においておこなったこの催しは、地域から国際親善に寄与する小さな一歩です。

夢と希望を

百年前に、安房からアメリカ

へわたったアワビ漁師たちの話に、私はワクワクしています。

明治といふ時代に、どんな思いで太平洋へ漕ぎ出したのでしょうか。言葉も通じず、生活習慣も文化も違う異国の地で、どのように信頼を得て、ビジネスを成功させていったのでしょうか。そして何より驚いたのは、アワビの大きさです。人の顔より大きなアワビのステーキって、どんな味なのでしょう。興味は尽きません。

不安な要素の多い現代、安房の先人たちの歴史は、私たちに夢と希望を与えてくれています。同時に演奏される館山発祥の合唱組曲「ウミホテル」こそ、フルフルは平和の色も、聞くたびに感動し、心が温かくなります。私は、このワクワク感をたくさんの人と分かちあいたいと望んでいます。

当日は、「太平洋にかかる橋〜アワビがむすぶ南房総・モントレイ民間交流史」の冊子と「ウミホテル」の楽譜を、特別価格五百円で頒布いたします。ご来場をお待ちしています。

太平洋にかかる橋

アワビがむすぶ南房総・モントレイ民間交流史
Bridging Across The Pacific
Abalone Connection Between Monterey Bay And Misaki

